



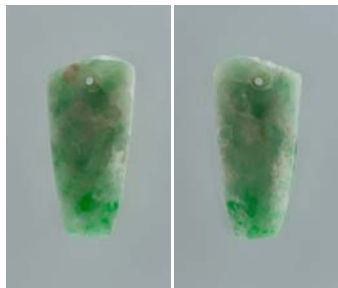
縄文土器（深鉢・浅鉢・鉢・有孔土器・ミニチュア土器、縄文時代中期前葉：大木 7a・7b・8a 式期のものが出土しています）



石器（石鏃・石錐・石匙・石槍・石筥・打製石斧・磨製石斧）



大小さまざまな土偶



ヒスイ製の垂れ飾り



小型の土偶



三角形土製品



リング状土製品



土製耳飾り

谷地遺跡の縄文ムラ

今回発掘調査を行なっている場所は谷地遺跡のごく一部ですが、ここに暮らした約 5,500 年前の縄文人の生活の一端をうかがい知ることのできる発見が相次いでいます。

調査区内のやや標高の高い場所には竪穴住居と貯蔵穴群が作られ、窪地は捨て場として利用されていました。竪穴住居は直径 7 m 程度の規模で、6～8 本の太い柱を立てたものと、多数の細い柱を立てたものがあります。貯蔵穴は同じ場所に重なり合うようにして何度も作られました。そして、窪地の捨て場には多数の土器などが捨てられましたが、単純なゴミ捨て場ではなかったようです。土器の破片に混じって、焼いて細かく砕いた動物の骨や角、祈りやまつりで使われたと考えられる大小の土偶や石棒なども多く出土しているからです。当時の人々にとって、捨て場は食料や衣類・道具の材料を提供してくれる動物、生活を支えてくれる様々なモノへの感謝を捧げるまつりの場であり、それらが再びムラの人々へ恵みをもたらすことを祈る送りの場であったと考えられます。

このことから、今回の発掘調査地点は谷地遺跡の縄文ムラの中でも人々の精神性に関わる重要な場所であり、縄文人の「こころ」をうかがい知ることのできる調査成果と言えるでしょう。

5,000 年前の縄文ムラ

谷地遺跡 発掘調査見学会資料

平成 24 年 6 月 9 日 (土)
蔵王町教育委員会

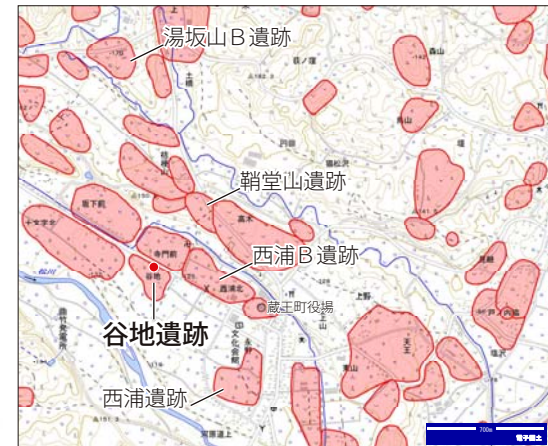


調査要項

遺 跡 名 谷地遺跡（宮城県遺跡登録番号 05021）
所 在 地 蔵王町大字円田字谷地
調査期間 平成 23 年 7 月 14 日～平成 24 年 7 月 31 日（予定）
調査面積 約 1500 ㎡
調査原因 白石消防署蔵王出張所建設用地造成計画
調査主体 蔵王町教育委員会
調査指導 宮城県教育庁文化財保護課

はじめに

大昔の人びとが暮らした住居跡や、土器・石器などが埋蔵されている場所を、遺跡と言います。遺跡は、古文書などに記録されていない大昔の人びとの生活の様子を知ることのできる貴重な文化財であることから、やむを得ず工事などで壊されてしまう場合には、事前に発掘調査を行なって遺跡の記録を残します。発掘調査が終わるとその成果は報告書にまとめられ、日本の人類の生活の歴史を調べる考古学の研究や、住民の皆さんに郷土蔵王の歴史を知っていただくための展示や講座などの事業に活かされます。



谷地遺跡と周辺の遺跡



竪穴住居跡の発掘調査

谷地遺跡の立地と周辺の遺跡

谷地遺跡は蔵王町大字円田字谷地に所在し、松川の北岸に形成された平坦な丘陵（河岸段丘）の上に立地する縄文時代中期前葉（約 5,000 年前）の遺跡です。周辺の丘陵には鞘堂山遺跡（中期中葉）、湯坂山 B 遺跡（中期後葉）、西浦 B 遺跡（後期初頭）など、縄文時代の遺跡が多数分布しており、蔵王町内でも遺跡の分布密度の高い地域となっています。

発掘調査で分かったこと

発掘調査は、敷地約 2,120 ㎡のうち建物建設・舗装工事が行なわれる約 1,500 ㎡を対象として、平成 23 年度から継続して行なっています。現在も調査は継続中ですが、本日はこれまでの調査で分かってきた谷地遺跡の概要について説明します。

遺跡から発見されるもののうち、住居跡や古墳など地面に残された痕跡（不動産）を「遺構」、土器や石器などのモノ（動産）を「遺物」と呼んでいます。これまでに確認された遺構は竪穴住居跡 3 軒、竪穴状遺構 7 か所、捨て場遺構 4 か所、貯蔵穴 37 基、焼土遺構・炉跡 16 基、落とし穴 2 基、土坑・柱穴多数などです。遺物は、縄文土器（大木 7a・7b・8a 式期）と石器などを中心に既に整理箱で約 400 箱の膨大な量が出土しています。この中には、ヒスイ製の垂れ飾り 1 点、リング状の土製品 1 点、土偶の破片 45 点などの比較的めずらしい遺物も含まれています。



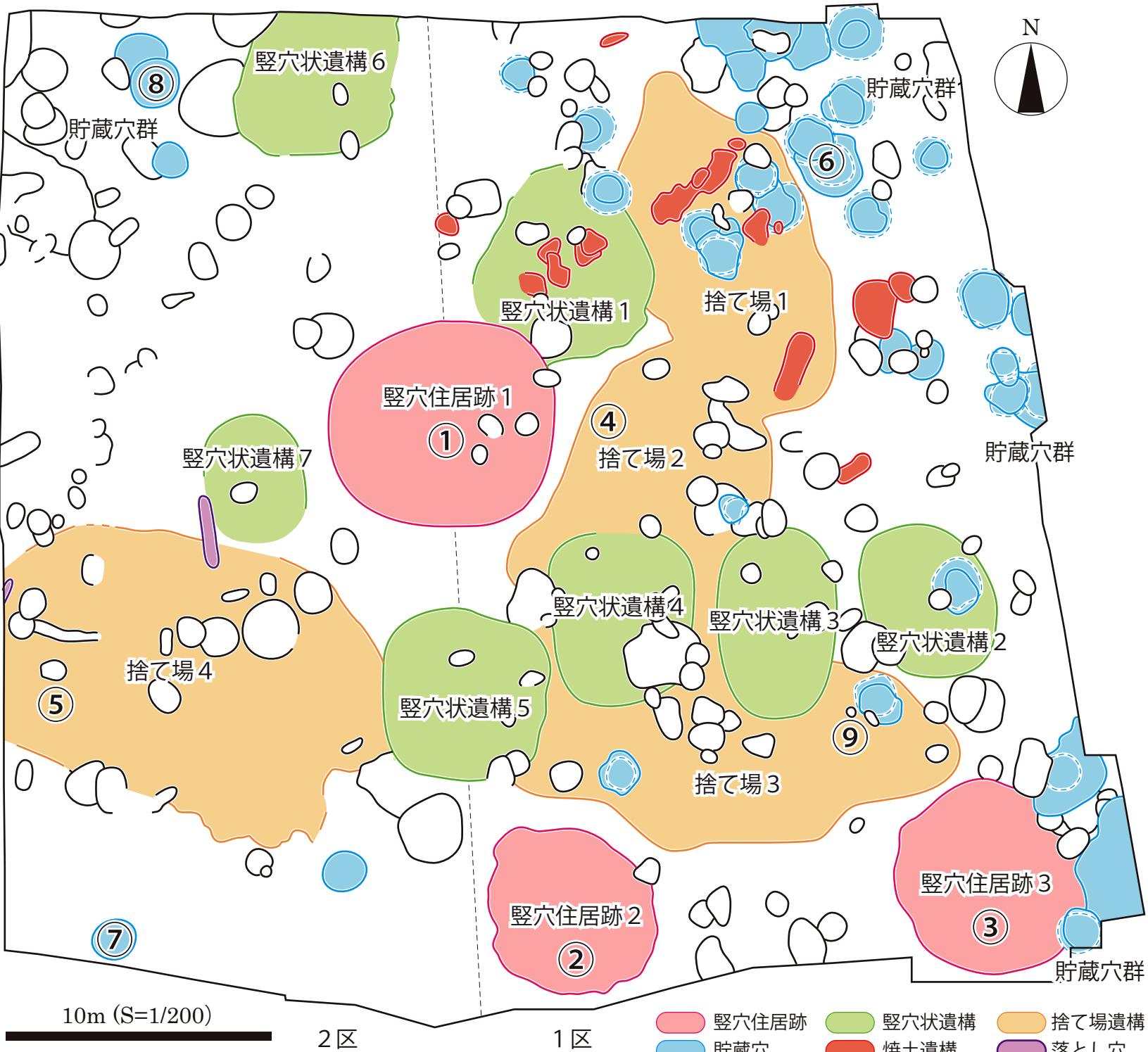
① 竪穴住居跡 1（西から）
直径約 7.8m の円形で、中央に火をたいた炉の跡があり、周りには柱を立てた穴の跡が6か所あります。



② 竪穴住居跡 2（北から）
直径約 6.0m の円形で、北側に張り出しがあります。中央に炉跡、周囲に8か所の柱穴跡があります。住居が使われなくなった後のくぼみには、多数の土器などが捨てられていました。



③ 竪穴住居跡 3（南から）
直径約 7.4m の円形で、東側は住居跡より新しい貯蔵穴群で壊されています。中央に炉跡があり、周囲には小規模な柱穴跡が多数掘られています。



④ 捨て場から出土した土器（西から）



⑤ 穴の中に捨てられた土器と石器（北から）



⑨ 穴の中に埋められた土器（南東から）



⑥ 重なり合う貯蔵穴の跡（東から）
貯蔵穴は何度も掘り直され、同じ場所に重なり合うようにして掘られていました。



⑦ 貯蔵穴の断面（北から）
貯蔵穴は上部にくびれを持ち、底の方が広い三角フラスコのような形をしています。



⑧ 深さ 175cm の貯蔵穴（北から）
最も深い貯蔵穴は硬い火山灰の地層を掘り抜き、深さ 175cm まで掘られていました。

上部が既に失われていますが、穴を掘り、平たい石を置いた上に土器を逆さまにして埋めています。子どものお墓の可能性もあります。